

山岳部通信 No.28

山岳部の紹介と活動状況をお知らせしていきます。

今回の山岳部通信は先日行われましたボルダリング大会についてです。

令和4年度のボルダリング大会は、11月20日(日)に千葉県立幕張総合高等学校ボルダリングウォールを会場に行われました。

海匝地区にも民間のボルダリングジムができていますし、シューズと滑り止めのチョークのみで手軽に始められるスポーツです。クライミング競技には【リード】【ボルダリング】【スピード】がありますが、【スピード】を除いた2競技が高校生の大会となります。《各競技概要は山岳部通信No04をご覧ください。》

今年についてもコロナの影響により3密を避けるために、各選手の受付時間、アップ、競技時間に至るまですべて分単位で指定し大会を行いました。今回はウォールを4つのエリアに分けて課題が設定されました。いかにアテンプト数(挑戦回数)を少なくして完登(攻略)することが出来たかで順位が決まります。

第1課題



第2課題

第3課題



第4課題



男子の課題は茶色のテープで示されたホールドの課題です。(女子は水色テープ)

各課題とも手足限定スタート「V」で示されています。

「VV」は1つのホールドに手または足の「2つ」指定で、(手・手) or (手・足) or (足・足) となります。ただし、壁そのものはその限りではありませんが・・・どの課題も手前に壁が傾いており、第4課題なんかは忍者のご

とく取り付かなくてはなりません!

ルートを読む思考力と柔軟性、そして思いっきりの良さ。パワーをいかに上手に利用するかが勝負になります。《成績の付け方は山岳部通信 No06 をご覧ください。》



競技時間は4分。初めて課題を見て、攻略の手順を考えるのです。まさに知力と体力、柔軟性など総合力の競技です!!

東総の結果は惨敗でした。普段の壁との違いや、大柄なホールドの活用方法、第4課題の忍者?スパイダーマン?のようなムーブなど、それぞれ特徴的な課題に悪戦苦闘でした。

次回の大会は新人クライミング大会になります。練習量やいろいろなムーブの経験を積んで次回に臨みたいと思います。